



# 連協道路ニュース

発行 横浜環状道路(圏央道)対策連絡協議会 事務局  
Tel 045-893-4877 <http://renkyoueditor.web.fc2.com/>  
Mail: renkyoueditor@mail.goo.ne.jp

第274号

(創刊 1988.12.14)

2012.07.01.

## アンケート裁判、山場へ

栄区の不当アンケートに関する裁判の第五回口頭弁論が6月20日横浜地裁で開かれ、30人近くの住民が傍聴席を埋める中で審理が進められた。裁判は今や山場にさしかかり、原告住民が迫及してきた次の二つの論点が大きく浮かび上がってきた。

### 1. 南線の設問は誘導的で、集計法は誤り。

設問の冒頭に「横浜市では横環南線の整備を促進しています」として南線が横浜市の重要な事業であること、更に東名や中央道に繋がり、環状4号線の渋滞緩和が期待されるなどの利点を述べて、「あなたは南線に期待しますか」という形式になっている。これはアンケートなど社会調査の専門家が、「行政による明らかな誘導であり、回答者に威光暗示効果を与えるので間違ってもやってはいけない事」と述べている。更に集計方法は数学的または統計学的に明らかに誤りと断定した。

### 2. 意図をもって南線を故意に取り上げ。

平成21年度の国交省事業監視委員会が南線の事業継続を決める上で地元栄区民の意見を最も重視した事を受けて、栄区では翌22年度の区民意識調査で南線への区民の期待が大きい事を示すデータを得、24年度と同委員会で南線の事業継続を確実にする事を意図し故意に事を進めた事実があり、以下にそれを示す。

- 1) 栄区では発足以来毎年区民意識のアンケート調査を実施してきたが、今まで一度も取り上げられなかった南線を22年度に突如取り上げた。
- 2) 1.で述べた誘導的設問は全国的にも例の無い前代未聞のものであり故意以外にはありえない。

- 3) 南線に関する集計法は専門家により間違いと断定されたが、社会常識に照らしても容易に解るしごく単純な誤りであり、行政がこれを知らないはずがない。この方法は南線に期待する住民の数が膨らんで大きく出るため、故意にこれを採用したとしか考えられない。
- 4) 今回のアンケート調査を請け負った業者にそれとなく聞いたところ、「本件の様な誤った集計法は依頼者の指示が無い限り採らない」という。このことは本件の集計法は栄区の指示によることを強く示唆し、たとえ栄区が否定してもそれは説得力に欠ける。

以上、1.については前回の準備書面(Ⅱ)で、2.については今回の準備書面(Ⅲ)で原告らが迫及しており、次回9月5日の裁判で被告がどう反論するか興味があり、さらに厳しく追及するつもりである。(法都計部)

## 「ディーゼル排ガス発がん性」認定

昨年5月29日、嵯峨井勝氏による「排ガスによる喘息・肺がんを考える」講演会が本郷中学校にて行われたが(道路ニュース261号)、その中で力説されたディーゼル排ガスの「すす」、いわゆるPM2.5がアスベストと並んで肺がんを引き起こすとWHOが発表した。

これまでの「おそらく因果関係がある」から1段階引き上げ、「ディーゼルの排ガスは人間に肺がんを引き起こす科学的根拠がある」と述べ、明確な関連性が認められる最も危険な分類とした。アスベストやヒ素と同じ危険度分類になる。PMの減少が直ちに健康にどう影響するのかはさらなる研究が必要だが、世界中でこうした排ガスを減らすべきだと警告した。(事務局)

(朝日新聞デジタル国際面2012/06/13より)

## 全国公害被害者総決起集会に参加して

6月5日(火)、日比谷公園と日比谷公会堂で開催された第37回全国公害被害者総決起集会に参加した。11時半頃から幟を持った参加者が集まりだし12時にデモの演説が始まり、その後日比谷公園霞門を出発、街宣車を先頭にシュプレヒコールを繰り返しながら霞が関官庁街をデモ行進した。

日比谷公会堂での抗議集会



デモ参加は60年安保反対運動以来の事、久しぶりで新鮮な気持ちの高ぶりを感じた。デモに参加した人たちの持つ幟が様々で、日本が高度成長期にあった昭和30、40年代は川崎、大阪などの大気汚染、水俣、神通川、阿賀野川の重金属汚染(イタイイタイ病)、その後明らかになった耐火材料であるアスベスト、米軍基地の騒音、福島第一原発による放射線等、直接人体に重大な被害を与える物質による公害、生活環境に重大な影響を与え健全な社会生活を害する公害と時代の流れと共に変わりその種は増える一方である。経済、社会が高度成長に邁進している時は公害の原因物質が人体に与える影響の研究や原因物質除去の技術開発が追い付かず垂れ流された結果、環境や人体に取り返しのつかないダメージを与えてきた。

先日、栄区でジェット機の轟音がとどろきました。米軍の空母艦載機による厚木基地での離発着訓練の騒音であったが、普段私達栄区住民にはなじみのない騒音で大きな不快感を持った。米軍基地の隣接地に居住する人達は常時この騒音に曝されている事を考えるとやり切れない気持ちになる。

昨年発生した福島第一原発事故による放射線公害は、日本政府も電力会社も安全に対す

るバリアーを二重、三重に張り巡らせているので原子力発電は100%安全であると宣伝し原発建設を推進してきたが、自然の大きな力の前ではこのバリアーがあっけなく破壊され、人間の思い上がりを叩きのめし大きな警鐘を鳴らした。

自然を破壊する道路やダム的大型構造物の建設も、将来自然のしっぺ返しを受け災害を引き起こすのではと危惧する。豊さや、便利さが現在より少なくなっても公害や災害の少ない社会であって欲しい、この様な事を考えさせられる一日でした。

(庄戸三丁目参加者より)

## 「桂台の生活環境を守る会」再結成、連協に加盟

桂台自治会は本年2月の会員アンケート、3月の総会を経て3月末に連協から退会した。

アンケート及び総会共に、概ね1/3の会員が「連協加盟継続」との意思表示をしていることにも拘わらず自治会として退会となった誠に不可思議な事態に鑑み、有志による「桂台の生活環境を守る会」が6月1日付けで再結成され、連協に加盟して共に運動して行くこととなった。

なお、「桂台の生活環境を守る会」は昭和62年横環南線の計画発表を受けて沿線住民有志で結成され連協に加盟していたが、平成6年の「自治会の連協加盟」を受けて自治会に活動を委ねて来たものである。1/3の住民の意を汲めない自治会問題はさておき、改めて抜本的見直しを求めて行きたい。(桂台 長谷川)

## 対外活動報告

- 06/12 第15回大気汚染公害被害者新救済制度 神奈川相談会(1名参加)
- 06/13 栄区アンケート問題住民訴訟の「準備書面Ⅲ」の提出
- 06/15 市情報公開請求開示資料確認(2名)
- 06/20 栄区アンケート問題住民訴訟第5回 口頭弁論(横浜地裁、傍聴者27名)
- 06/20 市議会情報公開開示資料確認(3名)
- 06/20 井上さくら市議(本人)、岩崎ひろし市議(秘書)に住民訴訟裁判・事業評価監視委員会対応状況について説明